

[店舗の省エネ事例]

京都市

株式会社 王将フードサービス 様

LED照明「iDシリーズ」が 「餃子の王将」を明るい省エネ店舗に

「餃子の王将」を全国展開されている株式会社 王将フードサービス様はこのほど、京都市内の大型店舗内にEVERLEDS(エバーレッズ)一体型LEDベースライト「iDシリーズ」を導入されました。最大50%近い省エネになっただけでなく、「明るくなった」とお客様からも好評。今後の新店では、LED照明が標準化される見込みです。

いっそうの環境貢献のために LED照明「EVERLEDS」をご採用

「餃子の王将」でおなじみの株式会社 王将フードサービス様は、1967年に京都・四条大宮に第1号店を開業されて以来、各地に店舗展開。現在は海外も含めて600店を超える、業界トップクラスの中華料理レストランチェーンとして発展を続けておられます。

環境問題にも早くから取り組まれ、食品残滓(ざんし)のリサイクル肥料化や使用済み割り箸の燃料用チップ化などを進めてこられました。また厨房の廃熱利用による自家発電、太陽光発電システムや排水浄化システムの導入など、環境対策に次々と着手されています。

このほど、店舗のさらなる省エネ化を進めるために、EVERLEDS(エバーレッズ)一体型LEDベースライト「iDシリーズ」を、京都市内の大型店舗「宝ヶ池店」と「北白川店」にご採用いただきました。



「餃子の王将 北白川店」(京都市)では、窓際のライン照明として「iDシリーズ」をご採用

「SUPER BOX」で実物に触れ 性能と価格に高い評価を

王将フードサービス様ではこれまでLED照明の省エネ性や長寿命性に注目し、看板照明に導入されていました。しかし店内照明についてはHf蛍光灯のコストパフォーマンスの良さから、LED照明の採用は予定されていませんでした。

ところが2012年11月に開催されたパナソニックの建築設備の総合内覧会「SUPER BOX(スーパー・ボックス)」に来られたご担当者様が「iDシリーズ」をご覧になり、進化したLED照明の性能と低価格化を高く評価。店内照明としては「餃子の王将」初の、LED照明のご採用となりました。

最大50%近い省エネ効果 デザインや明るさも好評

従来のHf蛍光灯をすべて「iDシリーズ」にリニューアルした「宝ヶ池店」と「北白川店」では、照明単体で比較すると電力使用量を約30～50%削減することができました。また高反射シートと高拡散パネルで効率よく光を拡げる「iDシリーズ」の特長が効果を発揮。従業員様や常連のお客様から「店内が明るくなった」と好評を得ておられます。

「iDシリーズ」の、ランプが見えないすっきりとしたデザインも高評価です。ランプの見えない照明器具のニーズが高い関東圏などでは、カバー付き照明を使用し、照度が落ちる分は灯数を増やすことで補うことがあるそうです。その点シンプルで薄型の「iDシリーズ」なら、灯数を増やすことなく通路スペースやカウンター席などのライン照明にも使えると喜んでいただいています。一体型で掃除がしやすいことや、LED照明ならではの長寿命性など、メンテナンス性のよさもご採用の一因になりました。



(写真上)「iDシリーズ」
のご採用で省エネ性が
向上し、明るくなった「餃
子の王将 宝ヶ池店」
(写真左)表面にネジや
ラッチがなく、すっきりした
デザインも好評の「iDシ
リーズ」

餃子の王将 宝ヶ池店



改正省エネ法対策にも有効 新店では標準装備化

多店舗展開されている王将フードサービス様は、改正省エネ法の特定事業者として、計画的なエネルギー改善が求められています。気候や来客状況などの要因で電力使用量が変動するエアコンや厨房機器と違い、照明器具の省エネ化は定量的に数値が予測できるため、省エネ法の対応策にも効果的。照明による電力使用量が店舗の25%前後を占めており、省エネ化は経営コストの削減にもつながっています。

また店舗の照明リニューアルに合わせて、本社の執務スペースにも「iDシリーズ」をご採用いただき、明るく快適な空間で作業効率が向上したと喜んでいただいている。

株式会社王将フードサービス 環境問題対策室長 奥野耕平様は「費用対効果から、店内照明のLED化は時期尚早と考えていた。『iDシリーズ』は性能が高く価格もリーズナブルなため、投資回収も早いと判断して導入に踏み切った」と話されます。

王将フードサービス様は2013年度、60店ほどの新規オープンを計画されていますが、「iDシリーズ」を標準採用していただける見込みです。既存店でも大型店や長時間営業の店舗を中心に70店あまりで、LED照明へのリニューアルが計画されています。



株式会社王将フードサービス
環境問題対策室長 奥野耕平様